

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究推進事業

ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート 2

厚生労働省エイズ対策研究事業「男性同性間のHIV感染対策とその評価に関する研究」成果報告



- 日高 庸晴 京都大学大学院医学研究科
- 木村 博和 横浜市健康福祉局
- 市川 誠一 名古屋市立大学看護学部

○はじめに

わが国では1999年からゲイ・バイセクシュアル男性を対象にしたインターネットによる学術調査が隔年で実施されています。1999年には1,025人、2001年は388人（自由記述式回答による質的研究）、2003年は2,062人の研究参加が得られ、実施回数を重ねるごとに研究に参加して下さる方も増加しています。一連の研究により、ゲイ・バイセクシュアル男性のインターネット利用層におけるHIV感染予防行動や、いじめ被害、自殺未遂、メンタルヘルスの現状などについて、多層的な情報が明らかになってきています。

これまでに実施されたゲイ・バイセクシュアル男性対象の行動疫学調査によると、ゲイ・バイセクシュアル男性のインターネット利用割合は他集団よりも比較的高いと推察されています。また、そのインターネット環境は日々変化しており、新しい出会いや性的機会、ソーシャルネットワークワークサイト（SNS）における人間関係の構築など、多種多様な目的のもとに活用されるようになってきています。インターネットの出現は、ゲイ・バイセクシュアル男性にとって情報獲得や出会いの機会を飛躍的に向上させたのみならず、インターネットによる学術調査の実施やそれをもとにした情報提供や健康教育の機会提供としても役立つようになってきました。

2005年に実施したインターネット調査 "REACH Online 2005"（REACHとはResearching Epidemiological Agenda for Community Healthの略です）では、質問項目の一部を過去に実施した調査と同一化することにより、その変化を把握・比較出来るように工夫してあります。こういった方法を用いることによって、わが国のゲイ・バイセクシュアル男性のインターネット利用層におけるHIV感染予防行動やメンタルヘルスの実態等の動向把握を経年的に捉えることが可能となります。

わが国において男性同性間性的接触によるHIV感染の拡大が依然続いている現在、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした有効なHIV感染予防対策を推進するために、これまでの研究結果を多くの領域の専門家の方々に知って頂きたいという思いから本報告書を作成しました。HIV対策やメンタルヘルス対策に重要な関わりがある、学校現場の教諭や養護教諭などの教育関係者、医師、看護師、保健師などの保健・医療の従事者、心理カウンセリングを担う臨床心理士などの心理臨床家、医療ソーシャルワーカーなどの福祉職、そしてHIV対策やメンタルヘルス対策に従事する行政担当者など、関連する領域の専門家の方々に研究結果を還元することを通じて、各専門領域の専門性を存分に活かした形で、効果的なHIV対策やメンタルヘルス対策が実施されていくことを願っています。

なおこれまでの研究結果の一部をホームページに公開しておりますので、ご活用ください。

2005年実施のゲイ男性対象のインターネット調査報告（厚生労働省エイズ対策研究事業）
<http://www.gay-report.jp> 有効回答数 5,731人

2003年実施のゲイ男性対象のインターネット調査報告（厚生労働省エイズ対策研究事業）
<http://www.joinac.com/spirits-wave2> 有効回答数 2,062人

1999年実施のゲイ男性対象のインターネット調査報告
<http://www.joinac.com/tsukuba-survey> 有効回答数 1,025人

2007年3月

研究実施者を代表して
京都大学大学院医学研究科
日高 庸晴